

# 住民主体のまちづくり

No.15 2015. 2

編集発行：車尾地域づくりモデル検討会

## ■ 車尾地域づくりスローガンが決定しました！

11月9日（日）に開催された車尾公民館祭で来場する住民に投票していただき、最多得票となったものをスローガンに決定しました。下記の5つの候補を検討会で選定して、公民館祭で提示しました。公民館の階段踊り場に掲示し、検討委員が来場した住民に投票を呼びかけました。

スローガンの5つの候補	投票数
人と自然を大切にふるさと 車尾	29票
人を愛し豊かな心と文化を育むまち 車尾	25票
水とともに命を育む ふるさと車尾	21票
人を大切に豊かな心を育む ふるさと車尾	72票
人にやさしい ふるさと くずも	53票

ご協力いただきました皆さま、ありがとうございました。

スローガンは、あらゆる機会に提示して、ぶれない取り組みを進めていく必要があります。

## ■ 車尾こども見守り隊が校区内全域で始動！

1月7日から、車尾小児童の下校途中を、お揃いの服装で見守り活動を実施しています。これまでは、5区と中島だけが、永らく取り組んでおりましたが、ようやく全町区に広がりました。これは自治連合会、青少年育成会、民生児童委員協議会などが結集した結果です。

## ■ 米川清掃について

環境美化部門の中核団体である環境をよくする会では、車尾地区内の米川をもっときれいな川底にする取り組みを考えています。管轄官庁などの県維持管理課、市農林課、米川土地改良区に相談して助言をいただきながら準備を進めています。

## ■ 持続可能な地域づくり

最近よく取り上げられるこの課題は、自然環境の問題だけでなく、限界集落、空き家の増加、耕作放棄地、少子化、高齢化、価値の多様性などさまざまな問題から構成される、複雑な問題です。

「持続可能」とは、1つの原因が1つの結果と結びつくという単純な関係ではなく、さまざまな要因がさまざまな結果と結びついて成り立っていると考えられます。

「持続可能な地域づくり」は、何らかの学問や科学、客観的な知識が1つあればこと足りるという、従来の知識や教育に対する見方が通用しない問題であり、人類が、これまでに経験してこなかった性質の問題に、私たちは直面していると言われています。

車尾地区でも、「持続可能な地域づくり」という目的を少しでも考えながら、その実現に向けて、地域づくりの担い手同士が出会い、交流し、互いの課題を共有し合いながら、相互に経験や知識を交流、交換し、総合的な「実践プラン」をつくり上げていくことが重要だと考えます。

この地域づくりの担い手は、自らが身近なところから自分とかわりのある課題を発見し、その解決に向けて何かしようと思ひ立ち、何かを提案するという能力や、実際に行動するためのスキル（技能）を身につけること、さらには共生という新しい価値観を身につけることや、未来への責任などという、これまであまり問題にされてこなかった、新たな能力を身につけることが求められているのです。

